

(別紙) 「平成29年度 第1回加東市手話施策推進会議」 会議の経過

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議 事

(1) 平成28年度加東市手話施策推進方針の実施状況について

発言者	会 議 の 経 過 / 発 言 内 容
事務局	説明
委員長	事務局の報告に対して意見は。
委員	聴覚障害者から直接、「聞こえない人たちのくらしや、困ったこと」を学ぶ講座は、誰が講師をされたのか。
事務局	職員研修は嶋本委員長にお願いした。手話っこ講座では、加東聴覚障害者協会に協力していただき、地元のろう者にお願いした。
委員	市職員の研修ができなかった理由と、平成29年度に開催するための方策を詳しく説明いただきたい。
事務局	研修を担当する総務課との調整で日程がずれて開催できなかった。平成29年度はすでに開催している。今年度は市職員対象の手話検定を加東市で実施することとし、検定合格を目指した講座を開催しており、35名が受講中である。
委員	伝の助の手話ワンポイントレッスンは、ケーブルテレビの放映のみか。ホームページで動画を配信すれば、再生回数から効果が計れるのではないか。
事務局	いくつかの動画は既に市ホームページに掲載しているが、作業が遅れている。
委員	ホームページに載せた動画は、どれくらい見てもらえているか把握していないのか。
事務局	そこまでは把握できていない。しかし全国のゆるキャラが集まる大会に伝の助が出場した際、他府県の人から「伝の助は手話ができるんですね。手話ワンポイントレッスンは分かりやすくて良い」と声をかけられたと聞いている。
委員	市立保育園、小中学校の福祉学習に設置手話通訳者等の派遣とあり、教育の場で手話を学ぶ機会を増やすのは良いことだが、設置手話通訳者だけを派遣するのか。従来は地元の聴覚障害者が手話サークルの方と一緒にいられて講師をされていたはずだが。
事務局	これは、学校から手話歌を教えてほしい、手話劇をしたいので手話のセリフを教えてほしいという依頼があって派遣した件を書いている。従来の福祉学習には手話サークルの方が行かれています。
委員	では、これは福祉学習ではないと。
事務局	手話を教えるだけでなく、聴覚障害についての話もしており、広い意味では福祉学習であると考えた。
委員	以前なら、そういう依頼も手話サークルや地元の聴覚障害者協会に依頼されていた。設置手話通訳者ができて、聴覚障害者が行く機会がなくなり、児童生徒が当事者とふれあう機会がうばわれているのではないか。
事務局	手話に興味を持ってもらうことで、聴覚障害への理解や聴覚障害者との交流につながるようにしていきたい。

委員長	ある市で、事業を行う際に、ヘルパーのような役割を手話を学んでいる方をお願いして、各個人に謝礼を払われた。そうやって個人をお願いされると手話サークルの役割がなくなってしまう。だから行政は、手話サークルの位置づけや役割をよく考えて、サークルの良い部分を生かすように施策を考えていただきたい。
委員長	ほかに意見はないか。 条例制定記念イベントのアンケート結果の説明を願う。
事務局	説明
委員	来場者数の内訳で、手話関係者のうち、ろうあ団体の方は4人だけだったのか。もっと来られていたと思うが。
事務局	アンケートに回答していただいた分しか計上できていないため。
委員	では来場者数ではなく、アンケートの集計結果ということ。
委員	アンケートの取り方をもっと工夫すべき。実際は約360人來られているのに、アンケートの集計数は80人ほどなので、内容を書きやすくするとか、回収場所をわかりやすくすれば、もっと回収率は上がると思う。
委員長	ほかに意見はないか。 では次の項目について。
委員	統一試験対策講座の評価が△だが、理由は。合格者がなかったからか。
委員	受講者の目標が10人のところ、8人しかなかったからか。
事務局	講座は実施しており、合格者は2人あったので、評価を○に訂正する。
委員	市主催のイベントに手話通訳をつける事業で15回とあるが、割合としてはどれくらいなのか。
事務局	市主催の行事は大変多いので、その内、市長の挨拶があるものに手話通訳を付けており、それが15回。
委員	その際、加東市は手話言語条例を施行しており、それによって手話通訳をつけているということを紹介すべきでないか。当たり前のように通訳が付いているのは良いことだが、市民に対して手話言語条例を繰り返しアピールし、手話や聴覚障害への理解について啓発を図るべきと思う。
委員長	ぜひ、今の委員の意見を取り入れていただきたい。 ほかに。
委員	市登録通訳者に対し、けい腕検診及びインフルエンザ予防接種費用を助成する事業は、何人が受けられたのか。
事務局	市の登録通訳者3名、准通訳者3名の内、インフルエンザは全員受けられたが、けい腕検診は1名が仕事の都合で受けられていない。

(2) 加東市手話施策推進方針(案)について

委員長	平成29年度手話施策推進方針(案)について説明を願う。
事務局	説明
委員	先ほど、各イベント開催時に手話言語条例の制定と、条例によって手話通訳を付けていることを紹介すべきという意見があったが、それを手話の普及を図るための施策として付け加えていただきたい。

事務局	29年度の推進方針に追記する。
委員	教育における手話の普及について、これまでどれくらい普及が図れたのか。各学校からの依頼を待っていたのでは進まない。昨年度も実施状況を見ても、社会福祉課は非常がんばっているが、加東市の手話言語条例であって、社会福祉課の手話言語条例ではない。教育委員会も加東市の機関であり、教育委員会と連携するという文言を入れて、どれだけ連携できたが検証していくべきである。
事務局	各小中学校には、指文字カードや手話に関するパンフレットを配付している。必要があれば手話講師の派遣もすると呼びかけている。
委員	社会福祉課からだけでなく、教育委員会を交えて、教育現場でどう取り組むべきか、現状の把握や情報共有しながら共に取り組んでいくことが連携なので、ぜひ教育委員会との連携を加えていただきたい。
委員長	事務局はぜひ検討願う。 ほかに。
委員	市職員研修や新採用職員に対する研修について、聞こえない人を知るという項目を加えてほしい。職員が手話ができるようになるだけでなく、手話サークル等に参加して学んだ手話で聴覚障害者と交流し、加東市におられる聴覚障害者について知る研修をしてほしい。聴覚障害者にも手話のできない方、中途失聴の方もあり、災害時等にはどこにどんな障害のある市民がおられるか知っていることが重要になる。
事務局	今後そういう内容も取り入れた研修を考える。
委員	ケーブルテレビで聴覚障害者から学ぶ手話レッスンを放映するとあるが、実際にやるのか。
委員	以前、ケーブルテレビの担当職員から、やったらどうかという意見を聞いたことがあるが、具体的に進んでいるわけではないと思うが。
事務局	以前にこういう提案があったので、できれば良いと思って上げているが、実現時期は未定。
委員	聴覚障害者協会としても検討しないといけない。受けられるかどうかわからない。
委員	ぜひ、前向きに検討していただきたい。聴覚障害者がテレビに出るといのは、大変影響力があり、良いことである。
委員	さくらルームの件は、推進方針に入れいいのか。
事務局	さくらルームは、手話言語条例での位置づけが難しく、検討中である。
委員	聴覚障害者が手話で自由に交流できる場が欲しいという意見は、各地でよく出ている。他市でも加東市のさくらルームのことは話題になっており、大変良い取り組みだと思うので、推進施策の中に入っていると思っていた。
委員長	今年度の実施状況を検証して、来年度はその結果で方針を決めてはどうか。 (「異議なし」の声あり)
委員	手話通訳者等の処遇改善等で、通訳者等の報酬に、緊急時、土日、夜間派遣の手当を設定すべき。国のモデル要綱にもあり、北播磨でもすでに決めている市もある。
事務局	緊急時等の手当は今後調査し検討していく。
委員	意思疎通支援事業には、要約筆記も含まれているが、この場は手話施策の会議で、要約筆記についてはどこで議論するのか。意思疎通支援については、別の会議を設けるべきでないか。

事務局	今年度から社会福祉課に要約筆記者を1名設置しており、今後、どのように進めるべきか相談しながら来年度に向けて検討したい。
委員	手話通訳者等の派遣要綱の派遣地域が「市内」となっているが、実際と合っていないので変えるべきではないか。
事務局	確認して文言整理をする。
委員	市主催のイベントでは、聴覚障害者から希望があった場合は、手話通訳を付けてもらえるのか。
事務局	申請があれば当然付ける。
委員	手話通訳派遣事業について、派遣対象者には団体も含まれるのか。
事務局	団体については、原則として兵庫県聴覚障害者協会が派遣することになっている。予算等の都合がある場合は、市で相談に応じている。
委員長	意見を整理する。派遣先や回数は制限がないのがベストであり、要綱等見直していくのが良い。意思疎通支援事業については、全日本ろうあ連盟でも手話言語法と情報コミュニケーション法はどちらが先かの議論があり、まず手話言語法成立を優先するとなったが、いろいろな意見があり、難しいところなので、加東市もそういった状況を踏まえて慎重に進めてほしい。
委員	以前、准手話通訳者を廃止する話があったが、どうなったのか。
事務局	まだ結論はでておらず、検討中である。
委員	聴覚障害者協会の中で、登録通訳者、准通訳者を交えて話し合いをした結果、准通訳者として勉強し、経験を積みながら、登録通訳者を目指すという今の形を残してほしいという意見が多数だった。
事務局	そういうことなら、今後も今の体制で進めていく。
委員	委員長から、意思疎通支援事業の話があったが、今の加東市で要約筆記についての議論をする場がないのが心配で意見を言った。手話言語条例を推進するのは当然だが、要約筆記についても話し合う場が必要ではないかと思う。
委員長	今後どういう形でするのか、ぜひ検討していただきたい。 ほかに。 (「なし」の声あり) ではこれで議事を終了する。

4 事務連絡等

5 閉 会